

公益社団法人 上伊那教育会

平成30年度 第2回 総 会

◇期日：平成30年6月18日（月） ◇場所：上伊那教育会館講堂

《 次 第 》

- 1 開会
- 2 上伊那教育会の歌『仰望』
- 3 会長挨拶
- 4 信濃教育会常任委員会報告
- 5 議事
 - (1) 第1号議案「平成29年度上伊那教育会
事業報告承認」に関する件
 - (2) 第2号議案「平成29年度上伊那教育会
決算報告承認」に関する件
- 6 協議
- 7 諸連絡
- 8 閉会



＜第2回総会の様子＞

第1号議案・第2号議案とも原案通り承認された。

上伊那教育会 飯澤 隆 会長 挨拶

代議員の皆様には、ご多用の中、第2回総会にご参集いただき、ありがとうございます。また、土曜日は少年の塔整備作業への参加ありがとうございました。

去る5月18日の上伊那教育会総研修会『仰望の日』では、一般参加者を加えて、1050名の皆様がつどい、つつがなく会を終えることができました。宮脇正実先生の会員発表や河合 敦さんの講演は、日々最前線に取り組んでいる先生方に、大きな示唆をいただけるものだったと思います。合唱団の発表もすばらしい歌声でした。ご尽力をいただいた代議員のみなさまをはじめ、仰望の日にかかわっていただいた皆様に心から感謝したいと思います。

さて、県外教育関係機関研修ですが、今年は会員の希望のなかから、神奈川県川崎市立川崎小学校、川崎市立川崎中学校を選定し、21名の視察研修団が結成されました。去る14日に事前打ち合わせ会を終えたところです。他県の実践に学ぶとともに、上伊那の教育の良さを見出していきたいと思ひます。

職能研修事業の中の三大研修「哲学研修、文学研修、授業研修」も充実した活動を行っています。どの研修も若い先生方が、求める心をもって積極的に参加してくださっています。先日の哲学研修会では、45名を超える先生方に参加いただき、叙述をもとに自分の体験を真剣に語っていただきました。文学研修も40名近くの参加者があると聞いています。集い合い、語り合い、学び合う研修をめざしていきたいと思ひます。

本年度のテーマは「『共学 共育』—ともに学び ともに育つ—」です。会員が、集い合い、語り合い、学び合い、ともに育っていくことをめざし、事業をすすめてまいりたいと思ひています。

そのためにも、会員にとって魅力ある教育会へ向けて刷新し、未来に継承し続ける教育会を創生することが、必要だと考えています。

仰望の日が終わり、事業が順調に進んでいるこの時期ではありますが、未来を見据え、主体的に学び合い続ける魅力ある教育会を創生していくために、これからのどうしていくべきかご意見をいただければ幸いです。

上伊那教育会諸事業についての意見交換



☆「郷土研究部の取組、上伊那誌自然篇改訂増補版」について

この度、上伊那誌自然篇が三冊刊行された。携わった郷土研究部専門委員の先生方、関係者に敬意と感謝を表したい。さっそく読ませていただいた。写真を見ているだけでもわくわくしてくる内容である。記事の内容も興味や好奇心を掻き立てるものばかりで、動植物の生態や特徴、人間とのかかわり、大地や大気のダイナミックな営みがわかりやすく丁寧に解説されており、上伊那の自然の豊かさや素晴らしさを再認識することができる。携わった先生方の地道な研究成果と熱意、ご苦労が伝わってくる。上伊那の先生の研究に対する姿勢の礎になるものだと考える。

☆「三大研修 文学・哲学・授業研修」について

教師が自主的に専門性を高められる場、学んでいける場と考えている。福井大学の松木先生の基調講演の中で、「教師が変わることなしに子どもを変えることはできない」「学ぶことは、生きることと同義である」という話につながる取組であると感じる。哲学研修、文学研修では赤穂小でも若い先生が会員となり参加している。感想を聞くと難しかったと話していた。しかし、レポートの事例を聞くことによってテキストの中身がわかり子どもの理解に繋がっていく気がすると話していた。授業研修では、子どもの姿から子どもをどう捉えるのかを考え合い、日ごろの授業づくり、学級づくりに生かしていけるものだと考えている。

1月の授業研修会では、実践発表の後、北原和俊先生が事例に即して具体的に指導して下さり、更に松木健一先生が大局的な見地から事例に寄せて指導していただいた。今年度もこのような研修を大切にしていけるよう声掛けをしていきたい。

☆「県外教育関係機関視察研修」について

昨年、上越市の大手町小と城北中の視察研修に参加させていただいた。2校の教育実践を目の当たりにし、多くのことを学んだのと同時に、自分自身の教育実践を振り返ることができた。共に参加した20名の先生方の研究会での積極的な質問や、自ら学ぼうとする姿勢に大変刺激を受けた。若い先生や女性の先生の参加も多く、研修が進むにつれ参加者同士で理解を深めることができた。上伊那の先生方が「つながり合う」という意味で大変有意義な研修の機会であることを実感することができた。学校を空けることに対しても、校長先生をはじめ多くの先生方から快く送り出してもらえたことに感謝したい。ぜひ、このような貴重な研修の機会を今後も継続していきたい。

☆「少年の塔慰霊祭」について

昨年度は一般の方、地域の皆さんも参加して盛大に行われた。慰霊祭では、北原和夫先生が実際に満州で体験されたことを話してくださり、たくさんの少年が自分のふるさとの地を踏むことなく現地で亡くなってしまった話を聞いた。そうした事実の大きさを知り驚いた。また、矢澤淳前会長の話から同じ過ちを二度と繰り返してはいけないという思いも新たにされた。先に行われた整備作業では、飯澤会長から少年の塔建立にかかわるお話をお聞きし、少年の塔を風化させることなく守り伝えていくことの大切さを感じながら作業に当たった。先日、本校で少年の塔について話をする機会を与えていただいた。教育会のHPから少年の塔の整備作業の様子を見ていただき、先生方にも少年の塔について知っていただいた。今、教育に携わっている私たちは戦争の歴史を正しく理解すると共に、心に留めておく必要がある、またその責任があると思う。平和教育研修事業は、その大切な機会となると考える。積極的に参加し、教職員として平和の尊さを呼びかけていきたいと思う。



○意見交換の発言を踏まえた飯澤会長の意見の概要

積極的な意見、前向きな意見をいただきありがたい。上伊那教育会の事業も以前に比べて毎年少しずつ変わってきており、前へ前へと進んでいかななくてはならないと考えている。今後もたくさんの事業があるので代議員のみなさんも参加していただき、その上でこうした方がよいというような意見を述べていただきたい。そして、改善につなげていきたい。